

2/26 マルコの福音書5章1～20節 「たった一人のために」

瓜生 和彦 牧師 (鹿児島いずみ教会)

○今日の箇所は、イエス様がゲラサ人の地に来られ、一人の人をお救いになるという箇所です。

1～2節 嵐のガリラヤ湖を渡られ、ゲラサ人の地に到着したイエス様と弟子たちのもとに、一人の人が、イエス様に近づいてきました。

3～5節 ゲラサ人の男は、汚れた霊(悪霊)にとりつかれ、とても悲惨な生活を送っていました。墓場に住み、墓場・山で一日中叫び続け、石で自分の体を傷つける生活をしていました。彼自身、こんな悲惨な生活をしたくなかったと思います。しかし、悪霊に支配され、どうすることもできなかつたのです。周りの人も助けてあげることはできませんでした。

8節 イエス様は、苦しんでいる彼の姿をご覧になって、深くあわれんでくださり、悪霊を追い出してくださいました。

12～13節 追い出された悪霊は、自ら二千匹の豚の中に乗り移り、崖を駆け降りて湖の中におぼれていきました。

14～17節 この出来事を知ったゲラサの地の人々は、イエス様に「この地方から出て行ってほしいと懇願」するのです。

18節 しかし、たった一人だけイエス様を求めて「お供させてほしい」と願った人がいました。それはイエス様に救っていただいたゲラサ人の男です。

19節 しかしイエス様は、ゲラサ人の男にしかできない使命があつたので、お供させることを許されませんでした。それは、「家族」に、主がどんなに大きなことをしてくださったかを証しすることです。この「家族」ということばは、親しい友人を含むことばです。イエス様は、彼を、家族・親族・親しい友人のもとに遣わしたのでした。

20節 彼は、イエス様のおことばに従いました。彼の喜びがあまりにも大きかったので、家族にとどまることなく、「デカポリス地方」で多くの人々に主イエス様を証しました。

○イエス様は、私たちをも家族・親族・親しい友人のもとに遣わしておられます。ゲラサ人の男のように、救われた喜びに満たされて、主イエス様の十字架の愛を証しする者になりたいと願います。そして、イエス様が、たった一人のために嵐のガリラヤ湖を渡ってきてくださったように、私たちも一人の人を大切にして福音宣教に励んでいきたいと願います。